

2025 年卒

## 外国人留学生の就職活動状況に関する調査

2024 年 8 月発行

加速する日本企業のグローバル化への対応や訪日外国人対策のため、また、深刻な人材不足を補うため、外国人留学生の採用ニーズはますます高まっている。

「キャリアタス就活」および「CFN」に会員登録している 2025 年卒業予定の外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

### 【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点	・・・ P 3
4. 日本企業に対するイメージ	・・・ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種	・・・ P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方	・・・ P 6
7. インターンシップ等 <sup>(※)</sup> のプログラム参加状況	・・・ P 8
8. 就職活動開始時期	・・・ P 8
9. 7 月時点の就職活動量と内定状況 <sup>(※)</sup>	・・・ P 9
10. 企業に評価してもらいたいこと	・・・ P 10
11. 就職活動の情報源	・・・ P 10
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報	・・・ P 11
13. 留学の満足度	・・・ P 12
14. 外国人留学生就活川柳	・・・ P 12

※「インターンシップ」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査  
 ※「内定」には、内々定を含む

### 《調査概要》

調査対象：2025 年 3 月卒業予定の外国人留学生（現在、大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生）  
 調査方法：インターネット調査法  
 調査期間：2024 年 7 月 1 日～7 月 25 日  
 サンプルング：キャリアタス就活または CFN に会員登録している 2025 年卒業予定の外国人留学生  
 有効回答数：304 人

#### 回答者の属性

単位：人

文系	248	大学院	169	国公立	123
理系	56	学部	135	私立	181

#### ●出身国・地域

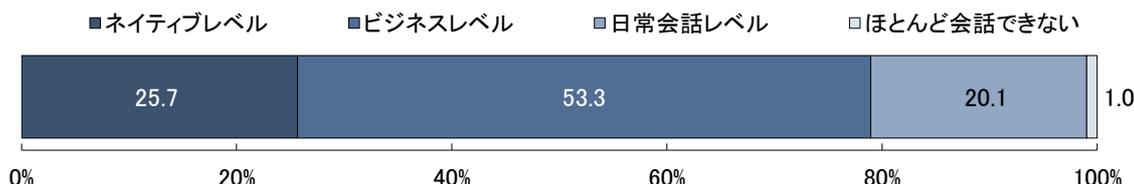
東アジア	東南アジア	その他アジア	北米	ヨーロッパ	オセアニア	ロシア	南米
262	23	4	6	3	1	2	3

※国内学生の調査結果は「キャリアタス就活 学生モニター調査」（2023 年 11 月、2024 年 1 月、2 月、3 月、7 月調査）より  
 ※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2024 年 4 月発行）より

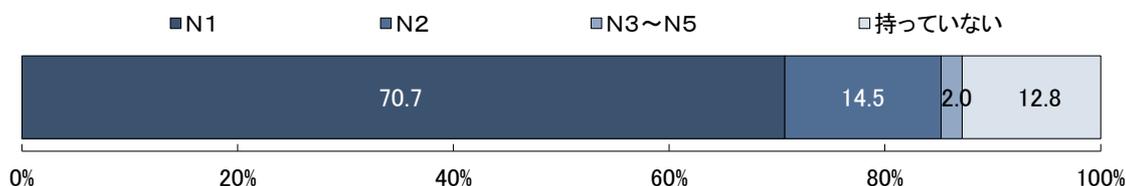
### 1. 現在の日本語力

まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(25.7%)、「ビジネスレベル」(53.3%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は約 8 割に上る (計 79.0%)。J L P T (日本語能力試験)のレベルについては、最高レベルである「N 1」の保有者は 7 割に上る (70.7%)。ビジネスレベル以上を求める企業が大半だが、そのレベルに達している者は多い。

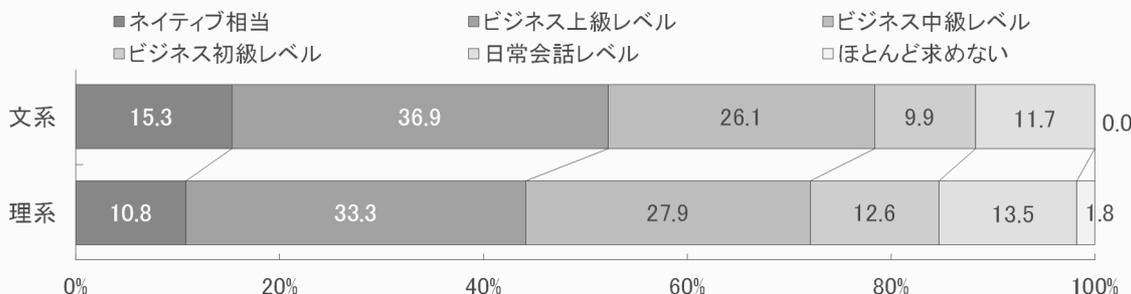
現在の日本語力



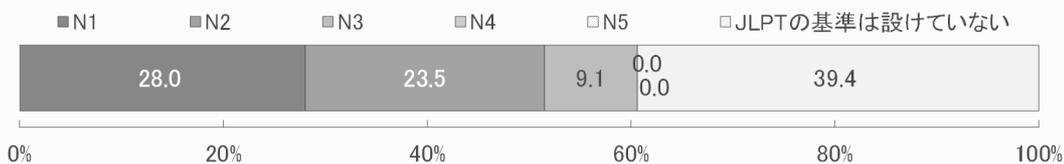
保有JLPT(日本語能力試験)レベル



【参考】企業が外国人留学生に求める日本語コミュニケーションレベル(内定時)



外国人留学生採用時のJLPTの入社基準



※「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」(2023 年 12 月)

#### ■JLPT (日本語能力試験) とは？

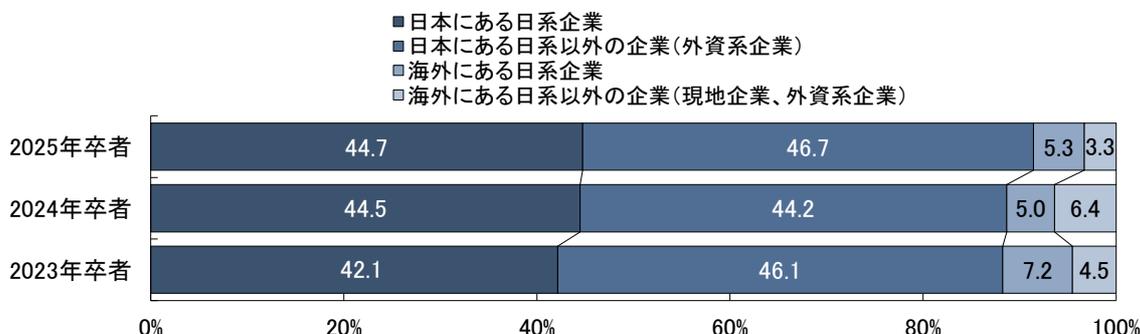
日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。

- 【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。
- 【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- 【N4】基本的な日本語を理解することができる。
- 【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる。

## 2. 就職したい企業の種類

卒業後に就職したい企業を4つの選択肢で尋ねた。「日本にある日系以外の企業（外資系企業）」（46.7%）が最も多く、僅差で「日本にある日系企業」（44.7%）が続く。日本での就職を望む外国人留学生は合わせて9割を超える（計91.4%）。

### 一番就職したい企業

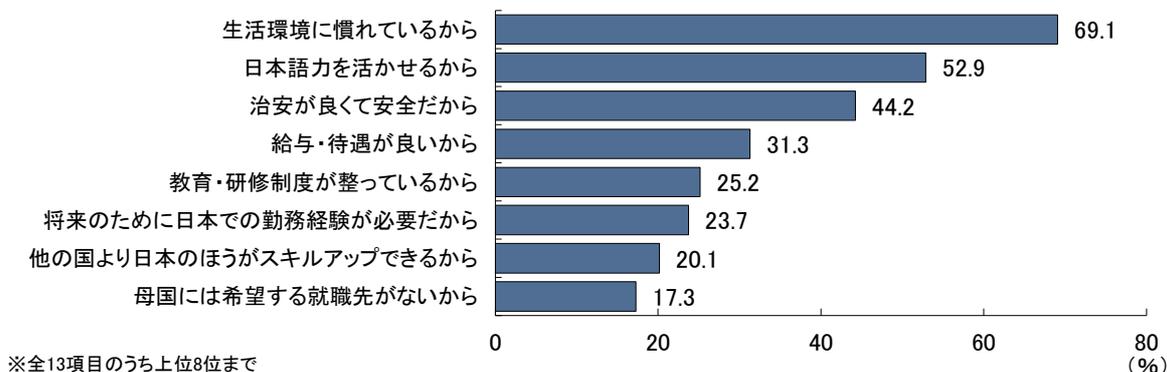


## 3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

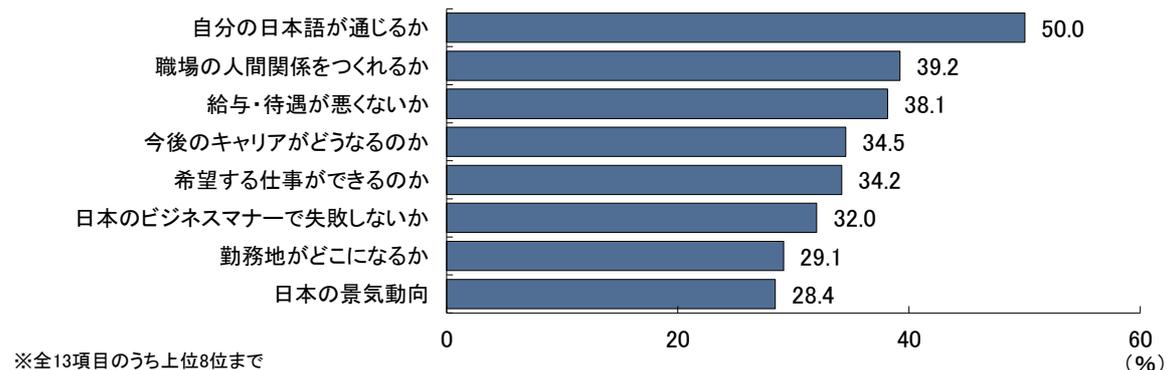
日本での就職を希望する理由として最も多いのは「生活環境に慣れているから」で、約7割（69.1%）。2番目は「日本語力を活かせるから」（52.9%）。一方、不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で、半数が選択（50.0%）。留学で培った日本語力を活かしたい反面、ビジネスの場で通用するか自信を持っていない者も少なくないようだ。

なお、日本で働きたい年数を尋ねると、「できるだけ長く」という回答が過半数を占めており（51.4%）、短期間での帰国を考えている者は比較的少数だった。（グラフは次ページ）

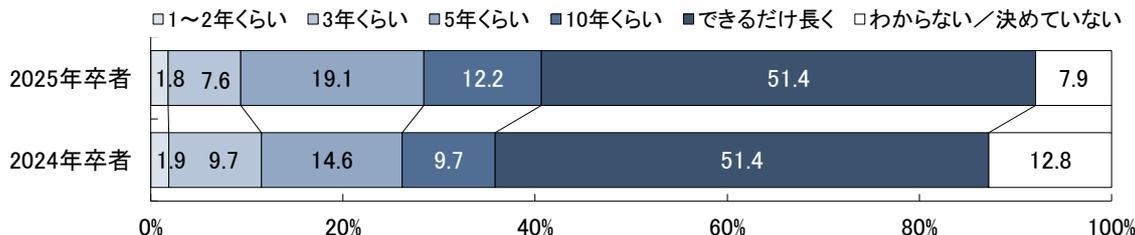
### 日本での就職を希望する理由



### 日本で就職する際に不安に感じること



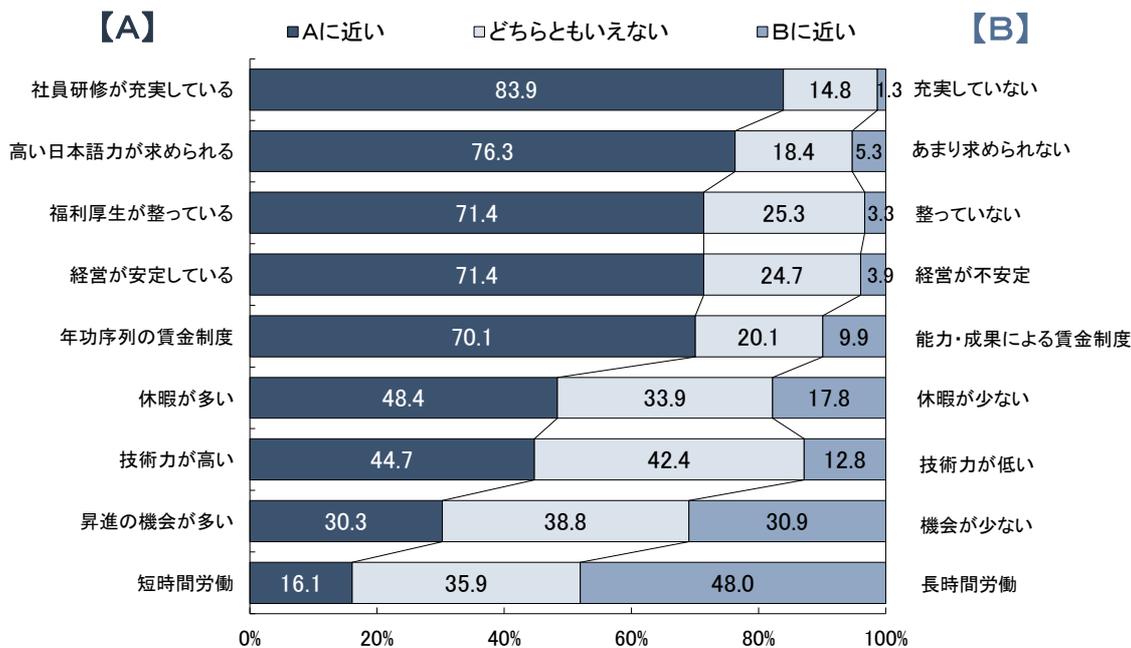
### 日本で働きたい年数



### 4. 日本企業に対するイメージ

最も多いのは「社員研修が充実している」(83.9%)。「福利厚生が整っている」「経営が安定している」(ともに71.4%)なども多くのポイントを集め、日本企業には安心して働ける環境があると捉えていることがうかがえる。反面、「長時間労働」(48.0%)、「昇進の機会が少ない」(30.9%)などの負のイメージもみられる。また、「高い日本語力が求められる」を7割強が選んでおり(76.3%)、日本企業への就職の障壁とを感じる留学生もいるだろう。

### 日本企業に対して抱いているイメージ

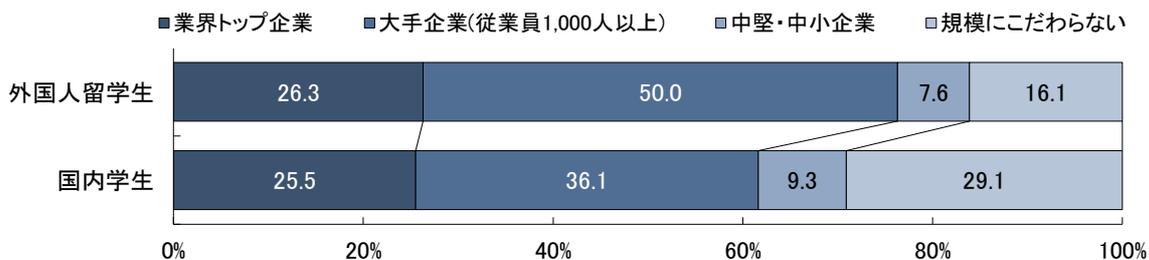


- 良いところは研修が充実しており、技術力が高い。悪いところは、現在も個人の能力ではなく、年功序列の会社が多いイメージ。また、日本の景気が悪くて、給料がなかなか上がらないことが心配。 <中国出身>
- 日本の企業文化には、勤勉さと規律正しさが重要視されます。従業員は責任感を持って業務に取り組み、チームワークを重視します。 <中国出身>
- 日本語力が非常に高くなければ通用しないというイメージがあります。 <韓国出身>
- 日本の企業はルールに厳しいイメージ。そして、残業をしないと「頑張っていない」という評価されやすいイメージ。 <スリランカ出身>
- 些細な事項でも上司に報告してから判断する。また、検討や調整が多く、組織が大きければ大きいほど決定のスピードが遅い。しかし、福利厚生が充実している。 <ベトナム出身>
- 多様性に乏しい会社はまだ多いと感じている。 <台湾出身>
- 外資系と比べると、昇進の機会が少なく、年収の壁があるイメージ。 <中国出身>

### 5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種

日本企業に限らず、就職したい企業の規模を尋ねた。「業界トップ企業」(26.3%)と「大手企業」(50.0%)を合計すると7割強に上る(計76.3%)。国内学生(日本人学生)の計61.6%と比べて約15ポイント高く、外国人留学生の大手志向の強さが表れている。日本にある企業になじみが薄い分、まずは知名度の高い業界トップ企業群に目を向ける留学生も少なくないと見られる。

就職したい企業の規模



※国内学生は2024年3月調査

続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系・理系ともに1位は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(文系:31.8%、理系:25.9%)。国内学生(日本人学生)にも人気のIT業界だが、外国人留学生ではさらに人気が高い。

文系は、2位に「情報・インターネットサービス」とIT関連が続く(22.2%)。同率で「調査・コンサルタント」も入っており、先に見たように外資系企業への就職を希望する留学生も多いことも影響しているとみられる。

理系は、2位に「自動車・輸送機器」「医薬品・医療関連・化粧品」「水産・食品」が同率で並ぶ(24.1%)。ITとメーカーが上位を占めるのは国内学生と変わらないが、「調査・コンサルタント」「総合商社」など、文系に人気の業種も比較的上位。

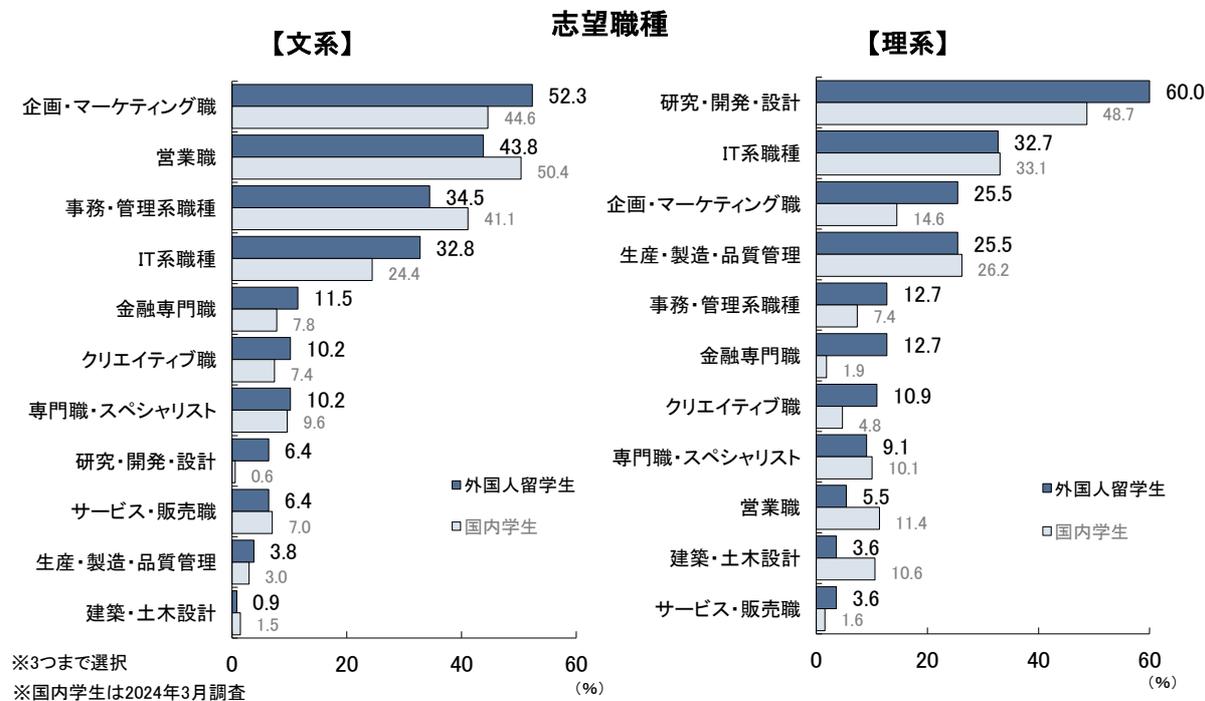
就職活動当初の志望業界 (上位10業界)

(%)

文 系				理 系							
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生					
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.8	1	銀行	22.5	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	25.9	1	素材・化学	22.1
2	調査・コンサルタント	22.2	2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	18.9	2	自動車・輸送用機器	24.1	2	電子・電機	17.9
	情報・インターネットサービス	22.2	3	情報・インターネットサービス	17.1		2	医薬品・医療関連・化粧品	24.1	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
4	総合商社	21.8	4	マスコミ	13.6	5	水産・食品	24.1	4	情報・インターネットサービス	16.5
5	銀行	14.6	5	建設・住宅・不動産	12.8		5	電子・電機		22.2	4
6	電子・電機	14.2	6	調査・コンサルタント	12.0	6	調査・コンサルタント	18.5	6	水産・食品	16.0
7	専門商社	13.8	7	水産・食品	11.7		6	素材・化学	18.5	7	精密機器・医療用機器
8	エンターテインメント	13.0	8	官公庁・団体	11.1	8	情報・インターネットサービス	16.7	8	建設・住宅・不動産	14.7
9	自動車・輸送用機器	12.1	9	商社(総合)	10.5		8	機械・プラントエンジニアリング	16.7	9	自動車・輸送用機器
	マスコミ	12.1	10	保険	10.1	10	総合商社	14.8	10	エネルギー	11.8
	ホテル・旅行	12.1					10	銀行	14.8		
							建設・住宅・不動産	14.8			

※40業界の中から5つまで選択  
 ※国内学生は2024年3月調査

志望職種を全 11 項目の中から 3 つまで選んでもらい、文理別に国内学生と比較した。外国人留學生の文系で最も多いのは「企画・マーケティング職」で半数強が選択（52.3%）。次いで「営業職」（43.8%）の順。4 番目の「IT 系職種」が 3 割を超え（32.8%）、国内学生（24.4%）を大きく上回る。理系を見ると、外国人留學生の 1 位は「研究・開発・設計」で 6 割。国内学生でも最多だが（48.7%）、より集中度が高い。



## 6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

外国人留學生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「給与・待遇が良い」が最も多く、半数近くが選んだ（48.0%）。僅差で「将来性がある」（47.7%）が続き、上位 2 項目は三者共通。3 番目の「有名企業である」（31.9%）は、国内学生、日本人留學生より数字が高いのが目立つ。

一方、国内学生で 3 番目に高い「福利厚生が充実している」（30.1%）は、外国人留學生は 17.1% で、それほど関心が高くないようだ。

### 就職先企業を選ぶ際に重視する点（上位 10 項目）

外国人留學生		国内学生		日本人留學生	
1	給与・待遇が良い 48.0	1	給与・待遇が良い 45.2	1	給与・待遇が良い 45.8
2	将来性がある 47.7	2	将来性がある 44.3	2	将来性がある 33.8
3	有名企業である 31.9	3	福利厚生が充実している 30.1	3	大企業である 29.1
4	大企業である 28.6	4	社会貢献度が高い 29.1	4	社会貢献度が高い 27.4
5	職場の雰囲気が良い 22.0	5	職場の雰囲気が良い 29.0	5	有名企業である 25.1
	休日・休暇が多い 22.0	6	休日・休暇が多い 28.3	6	日本以外の国で働ける 23.3
7	業界内の順位が高い 19.7	7	大企業である 25.7	7	職場の雰囲気が良い 22.9
8	業績・財務状況が良い 17.4	8	希望の勤務地で働ける 25.6	8	仕事内容が魅力的 22.0
9	福利厚生が充実している 17.1	9	業績・財務状況が良い 23.4	9	高いスキルが身に付く 20.6
10	社会貢献度が高い 16.4	10	有名企業である 22.1	10	福利厚生が充実している 18.2

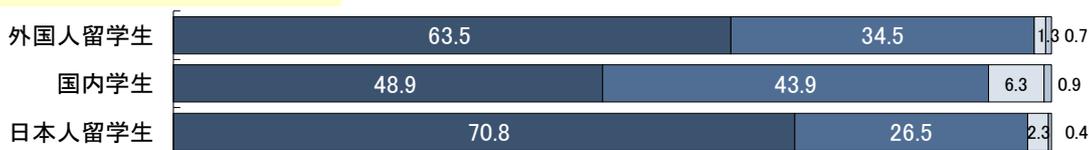
※全 30 項目の中から 5 つまで選択  
※国内学生は 2024 年 1 月調査

次に、就職先企業選びに下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生、日本人留學生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、外国人留學生の 6 割強が「とても影響する」と回答 (63.5%)。企業選びの重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が過半数 (51.3%) に上る。海外で学ぶ日本人留學生も同様に関心が高いのに対し、国内学生は低め (27.0%)。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、留學生・国内学生ともに、「影響する」の合計が 8 割強で、共通して関心が高い。

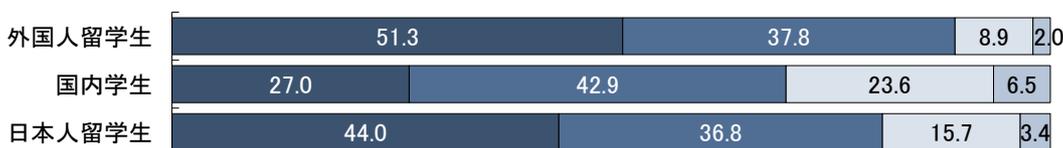
### 就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

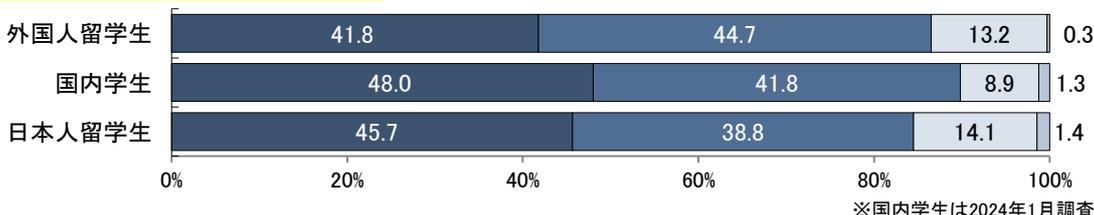
#### (1) 仕事を通して成長できること



#### (2) 多様性のある職場環境であること



#### (3) 柔軟な働き方ができること

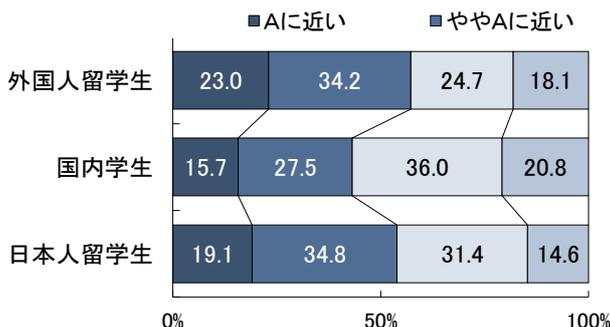


続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

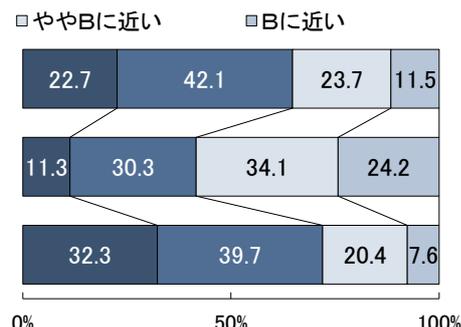
まず、「1 つの分野で専門性を高めたい」と考える外国人留學生は合わせて 57.2%。「幅広い業務を経験したい」(計 42.8%) を 15 ポイント近く上回り、国内学生と比べて高い。「仕事が多少忙しくても早く出世したい」は 6 割を超え (計 64.8%)、国内学生 (計 41.6%) を 20 ポイント以上上回る。留學生の出世意欲の強さが表れている。

### 働き方についての考え

- A. 1つの分野で専門性を高めたい
- B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



- A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい
- B. 出世するより自分のペースで仕事がしたい

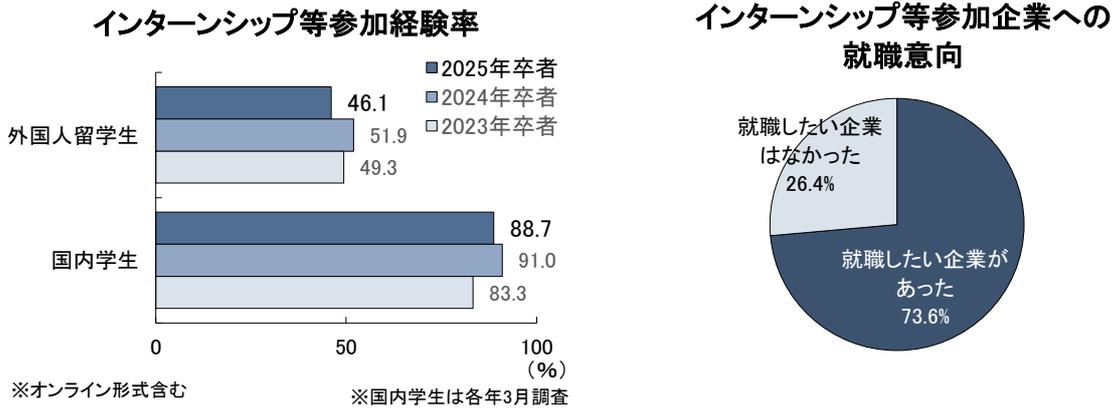


### 7. インターンシップ等のプログラム参加状況

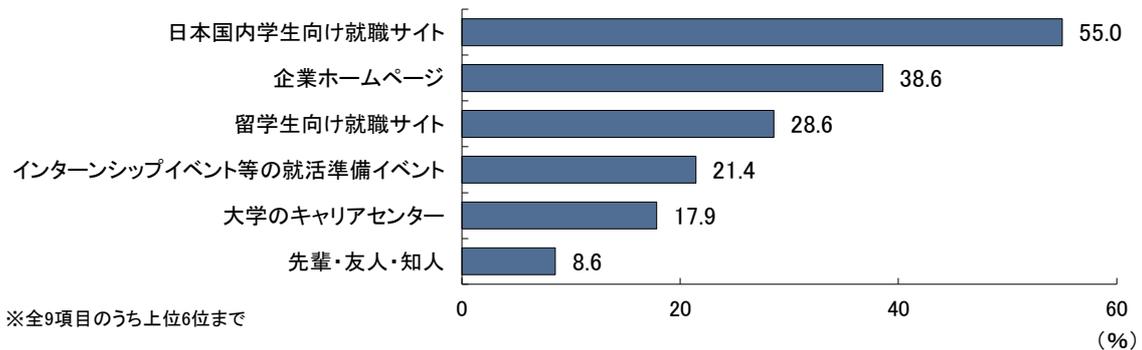
日本国内でのインターンシップや仕事研究プログラム等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は46.1%で、国内学生の経験率（88.7%）とは大きな開きが見られる。

なお、参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は7割超（73.6%）。参加経験率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに与える影響は大きいことがわかる。

※1日以内のプログラムも含む

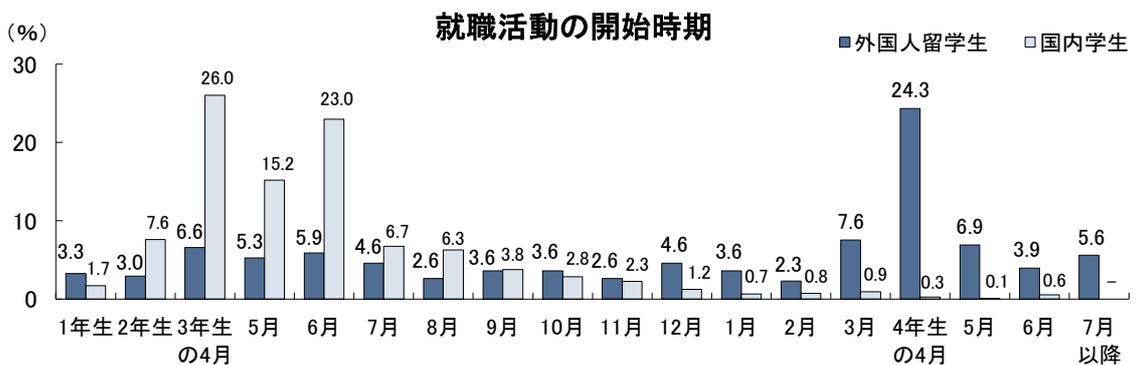


### 参加したプログラムを知ったきっかけ



### 8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4年生の4月」が最も多く（24.3%）、採用広報解禁（3月）以降の合計は48.3%。一方、国内学生は「3年生の4月」（26.0%）が最も多く、解禁前の合計が98.1%に上る。国内学生に比べ、外国人留学生の動き出しがかなり遅いことがわかる。



※「3年生」には「大学院1年生」を含む

※国内学生は2023年11月調査

### 9. 7月時点の就職活動量と内定状況

調査時点のエントリー社数は平均 26.7 社で、前年同期調査 (26.3 社) と同水準。会社説明会の参加社数は前年よりやや減少 (20.2 社→19.3 社)。ES 提出社数、筆記・適性テスト、面接試験の社数は、いずれも前年同水準。文理別では、文系の方が理系より活動量が多い。

すべての項目で国内学生の平均社数を上回っており、就職活動の開始時期は遅いものの、精神的に活動している様子が見て取れる。

#### 就職活動の社数

	(社)				
	全体	(前年)	文系	理系	(国内学生)
エントリー社数	26.7	26.3	28.3	19.7	25.9
会社説明会の参加社数	19.3	20.2	19.8	16.9	16.6
エントリーシート提出社数	21.9	21.5	23.4	15.5	13.8
筆記・適性テストの社数	15.8	16.1	16.9	10.9	9.9
面接試験の社数 (WEB面接含む)	10.9	10.7	11.5	8.1	8.9

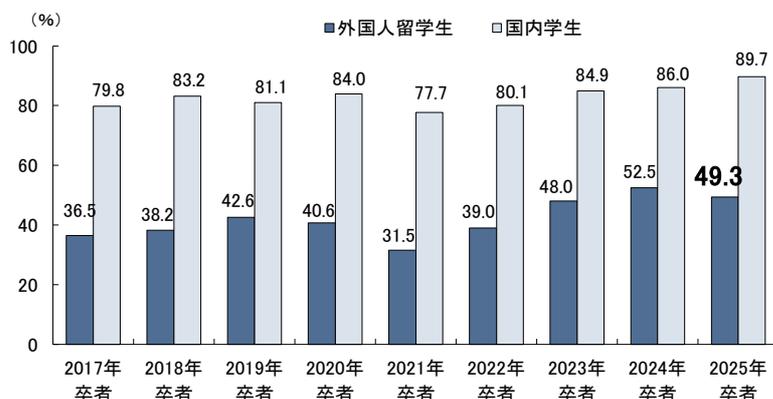
※国内学生は2024年7月調査

7月時点の内定率は49.3%。前年は、選考解禁が6月の現行のルールになった2017年卒者以降で最も高い数字を示したが(52.5%)、今年はそれに次ぐ高さで、就職環境の良さが反映されていると言えるだろう。ただし、国内学生の内定率が9割近くに上っているのと比べると(89.7%)、依然として大きな開きが見られる。なお、インターンシップ等参加有無で差が見られ、参加経験者の内定率は65.0%に上るのに対し、参加経験がない留学生は3割台にとどまる。

内定取得者も含め、就職活動を継続している外国人留学生は約6割(計60.9%)。同時期の国内学生(計20.3%)の3倍に上る。就職活動の動き出し時期の違いなどにより、進捗に顕著な差が生じている。

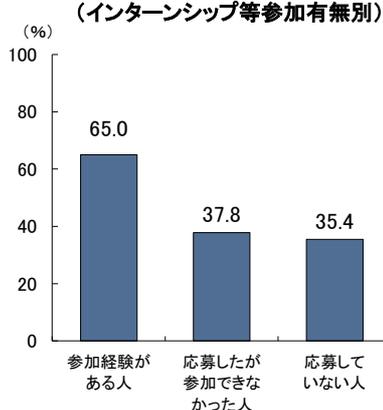
※「内定」には、内々定を含む

#### 7月時点の内定率 (国内学生との比較)

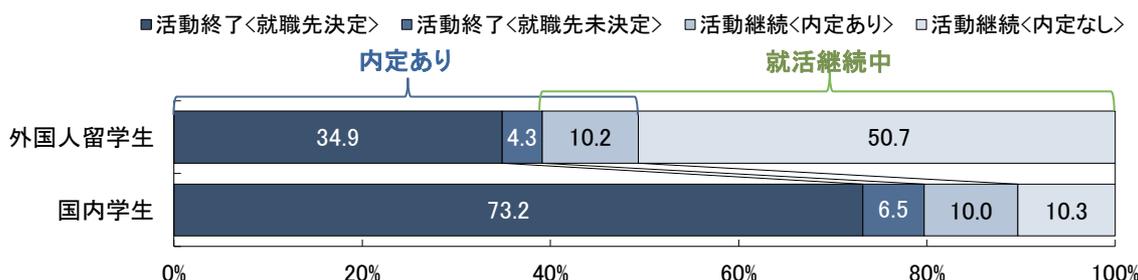


※国内学生は各年7月調査

#### 7月時点の内定率 (インターンシップ等参加有無別)



#### 7月時点の就職活動状況



※国内学生は2024年7月調査

### 10. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」で、それぞれ 5 割前後が選んだ。外国人留学生の 2 位以下には「基礎学力」「異文化対応力」「語学力」などが入り、留学経験を通じて向上させた能力を企業に評価してもらいたいと考える留学生が多いことが読み取れる。

#### 企業に評価してもらいたいこと（上位 10 項目）

(%)

外国人留学生		国内学生		日本人留学生	
1	コミュニケーション能力 49.7	1	コミュニケーション能力 49.4	1	コミュニケーション能力 52.5
2	基礎学力 34.5	2	協調性 46.4	2	異文化対応力 34.7
3	異文化対応力 32.9	3	熱意 26.6	3	語学力 32.7
4	協調性 30.6	4	明るさ 26.2		協調性 32.7
5	語学力 28.9	5	信頼性 25.7	5	リーダーシップ 26.0
6	専門知識 23.7	6	社交性 23.3	6	信頼性 22.9
7	熱意 23.4	7	基礎学力 22.7	7	社交性 22.4
8	社交性 18.8	8	身だしなみ・マナー 20.3	8	基礎学力 21.5
9	情報収集力 17.8	9	一般常識 16.1	9	バイタリティー 18.8
10	明るさ 17.1	10	大学の成績 14.3	10	明るさ 18.2

※全25項目の中から3つまで選択

※国内学生は2024年3月調査

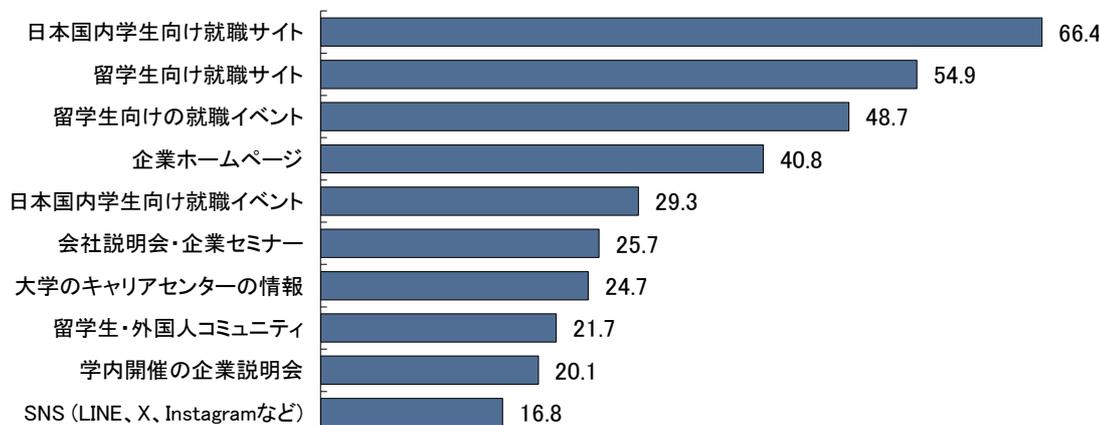
- 留学という大変な道乗り越えたこと。 <カザフスタン出身>
- 専門知識を具体的にどう活用できるのかを評価してもらいたい。 <中国出身>
- 将来性だけでなく、実際に成し遂げたこと、言語力をもっと評価してもらいたいです。 <ロシア出身>

### 11. 就職活動の情報源

外国人留学生が就職活動で活用している情報源について尋ねた。最も多いのは「日本国内学生向け就職サイト」(66.4%)。これに「留学生向け就職サイト」(54.9%)が続ぎ、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「留学生向け就職イベント」(48.7%)、「企業ホームページ」(40.8%)、「日本国内学生向け就職イベント」(29.3%)が続ぎ、様々な手段を用いて情報収集を行っている様子がうかがえる。

#### 就職活動の情報源



※全18項目のうち上位10位まで ※オンライン含む

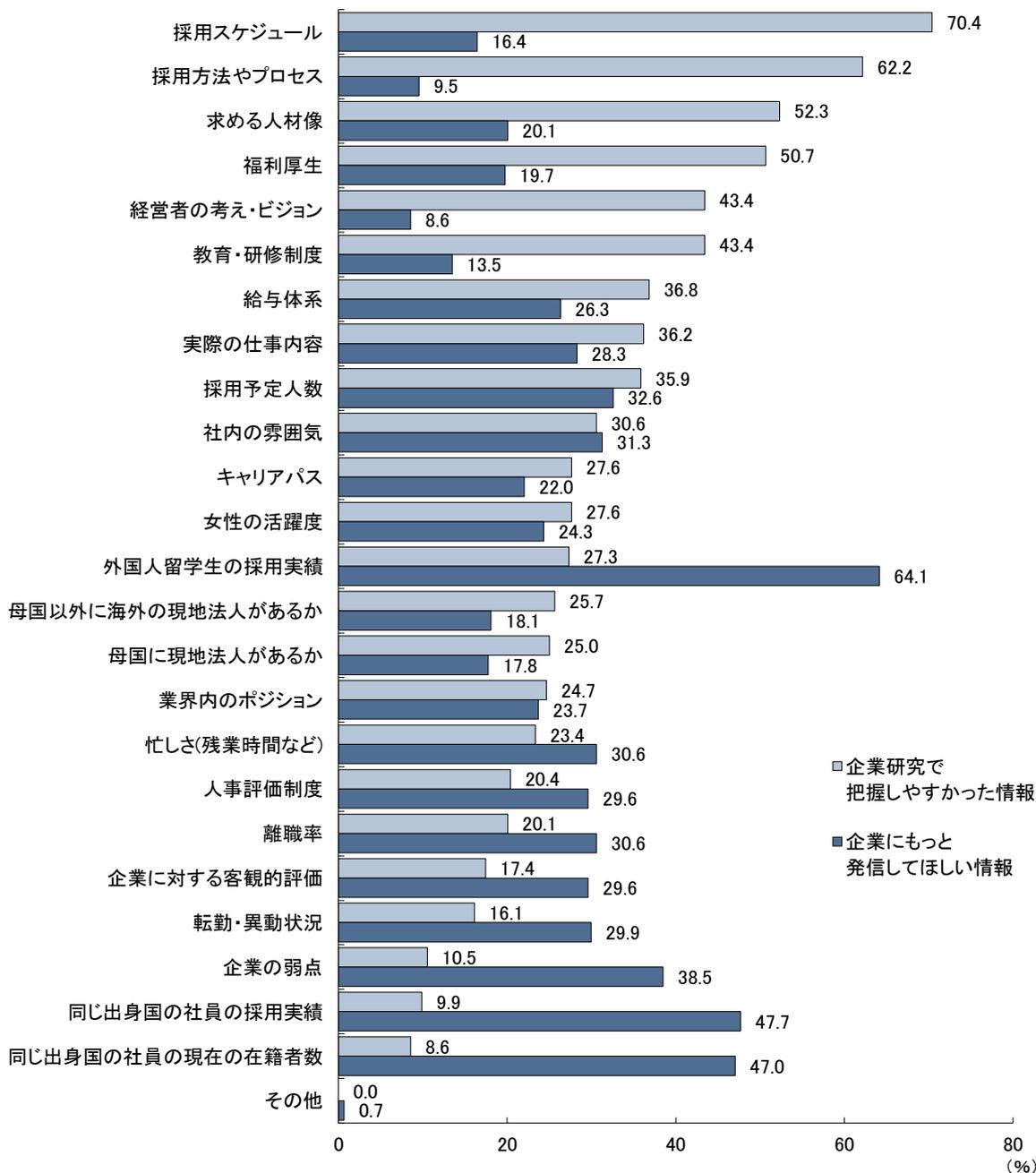
## 12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究で把握しやすかった情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」を、項目をそろえて尋ね、比較した。

まず、把握しやすかった情報は、「採用スケジュール」が最も多く、7割(70.4%)。これに「採用方法やプロセス」(62.2%)、「求める人材像」(52.3%)と基礎的な採用情報が続く。

対して、企業にもっと発信してほしい情報は、「外国人留学生の採用実績」が突出している(64.1%)。次いで、「同じ出身国の社員の採用実績」(47.7%)、「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」(47.0%)と外国人採用の実態に関する情報が続く。把握しやすかった情報と大きな差が見られ、外国人採用情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。

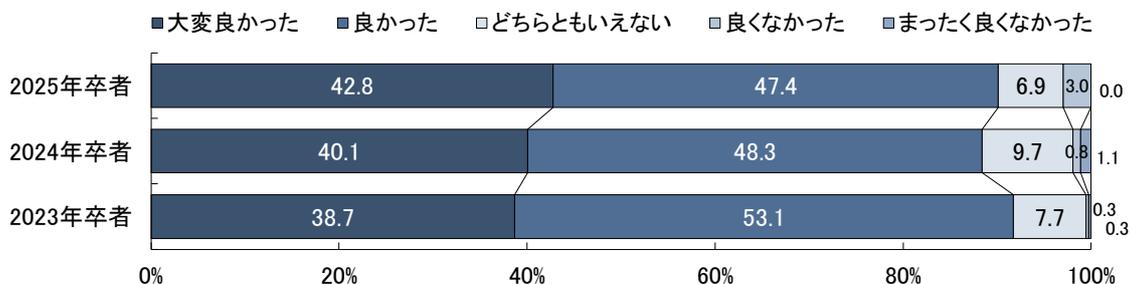
企業研究での情報



### 13. 留学の満足度

日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」(42.8%)と「良かった」(47.4%)を合わせると9割に上り(計90.2%)、満足度は高い。語学力の向上だけでなく、異文化での生活を経験したことで視野が広がったことなどが多く挙げられた。

留学をした感想



- 学びたい学問がしっかり学べた。よい人間関係もできた。自分の性格に結構合う国だと思う。 <韓国出身>
- 母国より多くの機会を日本で与えられて、より成長できていると感じた。 <スリランカ出身>
- 日本で留学していたおかげで日本での就職先企業が決まった。 <ハンガリー出身>
- 自分の母国が不景気の中で、日本に留学し、そして就職にも成功したおかげで、両親に恩返しができるから。 <中国出身>
- 貴重な国際経験ができて、日本語と英語が上達し、コミュニケーション能力も上がったので、すごく良かったと思います。 <ロシア出身>
- 治安がいいし、生活が楽しい。 <韓国出身>

### 14. 外国人留学生就活川柳

日本での就職活動で感じたことを、川柳に詠んでもらった。全79作品が寄せられた中から、一例を紹介したい。日本特有の就活スタイルに戸惑いながらも奮闘する様子が見えてくる。

